

2学期の取り組みを受けた学校評価について【考察】

R 3, 12, 20 箱山

はじめに

本校では、1学期の学校教育活動アンケート生徒用・保護者用（以降：アンケート）をもとに自己評価を行い（公表済み）、学校評議員からの学校評価を受け学校運営の改善に努めてきました。第2回アンケート結果をもとに本年度の学校評価を行います。

1 家庭生活について（自己評価）

ゲームについては、生徒、保護者ともにルール作りに課題がある。保護者との連携が大切である。引き続きPTAへの働きかけを行うと共に、小中PTAで連携した取り組みを推進する。

➤結果

「家庭にルールがある」に対して、保護者：67→59 生徒：46→56であった。保護者・生徒ともに肯定回答70%に達しないものの20ポイントあった両者の差が3ポイントに縮まった。「ルール」の視点が統一してきたと考えられる。取り組みが有効的であったと考える。

PTAへの一層の働きかけについては、千厩地域教育振興運動協議会の場で、小中PTA会長と、次年度それぞれのPTA総会の場で取り組みを確認することとしている。

2 学校生活について（自己評価）

「勉強は好きですか」に対しては、学校生活全体を質的に高める取り組みを行う。2学期の見通しを持たせるなど、ゴールを意識した生活を意図的に行わせることで学びへの積極的なかわりを持たせたい。

また、保護者アンケートから「目標をもって学校生活を送っていると思うか」の肯定回答が低いことから、生徒の目標を保護者と共有できる仕組みを構築することが大切であると考え。保護者の後押しも得ながら「目標ある生活」を実現していく。【各教科の2学期学習内容の提示】

「自分には良いところがある」についての肯定回答が低い。「目標ある生活」にあわせ、それぞれの良さを教師、保護者、生徒同士が具体的に伝える機会を増やしていく必要がある。【第1回学校評議委員会意見】

➤結果

「勉強は好きですか」は、生徒：49→45であった。「学校生活全体を質的に高める取り組み」を行ってきたが「勉強が好きだ」にはヒットしなかった。

また、「2学期の見通しを持たせる取り組み」も行ったが成果にはつながらなかった。別の視点での取り組みも検討する必要がある。

保護者アンケート「目標をもって学校生活を送っていると思うか」、「ワクワクして登校していると思うか」がともに7割以下であった。生徒の「学校は楽しいと思うか」肯定回答8割以上との接点が見えない。「勉強」がもっと生活の1部?になる必要があるのかもしれない。保護者とのかかわりは恐れず積極的に進めていきたい。ともに良い学びの環境を作るパートナーになりたい。

「自分には良いところがある」は7割以下であるが若干高まっている。一人一人の良さを教師、保護者、生徒同士が具体的に伝える機会を今後も増やしていきたい。

3 授業について（自己評価）

肯定回答が高いが、諸テストの結果からみると定着につながっていない。「わかった」と「定着」とのかかわりについて研究を進める必要がある。「受け身」ではなく自ら「定着を求める」姿勢を向上させていきたい。

帰りの短学活を活用し、授業と家庭学習とかかわりを明らかにしていく。

➤結果

「授業がわかる」については2年生を中心に肯定回答が上がっている。子供たちの「意識」は高まってきている。わかったことが「結果」として子供たちに返る仕組みが欲しい。

子供の「授業がわかった」という思いを大切にするためにも、日常の家庭学習と週末課題の在り方の工夫は重要である。「授業で先生の説明があるからわかった」、形成的評価の中で「わかりましたか。はい、わかりました」の「わかった」から「自分自身で解いてわかった。」「わかったことを活用して解くことができた」など、生徒自身の力で解くことができるようにすることが大切である。繰り返しとなるが授業の中だけでは難しく、週末課題の在り方の研究は必ず必要となる。

4 その他

保護者アンケートの「ワクワクして登校していると思うか」に対する肯定回答が低いことから、保護者が「ワクワクして登校させる学校」を目指していきたい。保護者との連携は重要な課題である。

➤結果

子供の姿から「ワクワクして登校している」様子が保護者に伝わりにくいようである。今後一層の工夫が必要である。しかし、「悩みや教育相談に親身に対応しているか」の肯定回答が7割を超えたことからこれまでの取り組みが保護者に伝わってきていることがわかる。

少しずつではあるが成果が出ている。3学期の学校生活はもちろんのこと、冬休み、春休みなども活用しながら子供たちの生活を応援し続けていきたい。